

豊かで 伸びやかに そしてたくましく

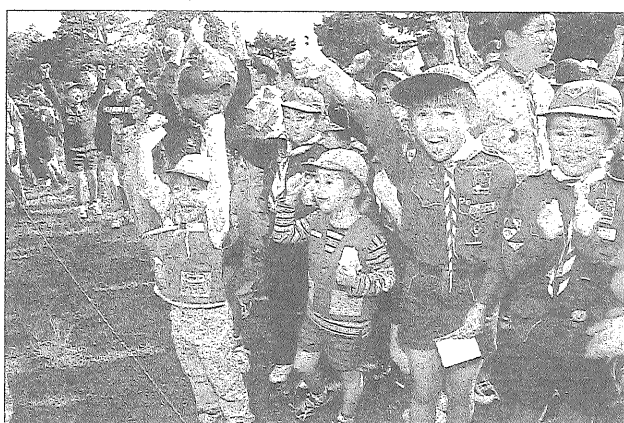


スカウト みやぎ

No.11

発行 日本ボーイスカウト宮城県連盟

発行日 平成18年10月30日発行



世界スカウト運動創始100周年記念

『スカウトラリー・パレード』実施

世界スカウト運動創始100周年（併せて日本が加盟している）アジア太平洋地域の活動が始まって50周年を記念する、宮城県連盟主催の、スカウトラリー・パレードを宮城県教育委員会・仙台市教育委員会・TBC東北放送後援のもと、10月8日、仙台市榴ヶ岡公園を会場として実施した。前日来の暴風雨の名残りはあるものの、天候に恵まれ県内のスカウト・指導者・奉仕者・父母参観者、凡そ700名の参加のもと、ラリーは公園一杯に設置された10カ所のゲーム等で行われた。

これより先、千田理事長はじめ参加スカウトは、全員制服制帽姿で各地から公的交通機関を利用

100周年記念事業推進委員長 芳賀 文蔵

して仙台駅に集合。駅からは各団ごとに、徒歩行進で午前10時までに会場に到着した。

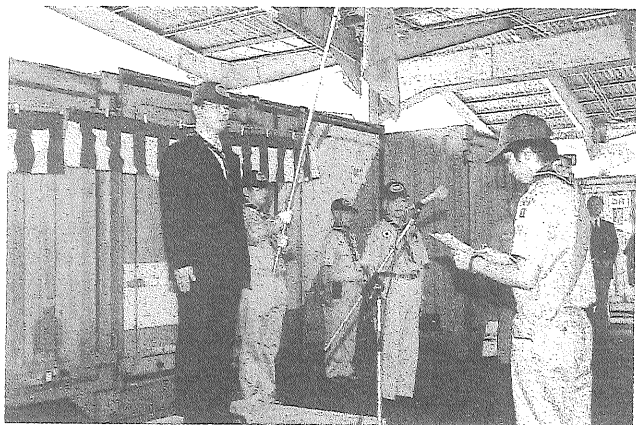
ゲームは世界旅行（輪投げ）、心を一つに（旗立）、シェーンカンバック（ブーメラン）、ガールスカウトの協力を得てバンブー等々に、ビーバー・カブ・ボーイそれぞれがゲームを選び思い思いに参加した。

最後はB・SやAPRの問題を中心とした〇×ゲームで締めくくった。

秋空のもと交流と挑戦に満足したスカウトに、参加カードで確認し、一人一人に、50周年スペシャルバッジを手渡して、盛会裡に意義のあるラリーを終了した。

14NJ 派遣特集

励ましのことば



本日ここに、第十四回日本ジャンボリーに参加するスカウト並びに指導者が一同に会し、派遣団の結団式を挙行できますことを誠に喜ばしく思います。

いよいよ八月三日の開会が目前となりました。派遣されるスカウトには、各団でこれまで培い、高めてきたスカウト技能を大いに生かして、多くの仲間との交流を深めてきて欲しいと思います。

そして、スカウトの皆さんには、三つの対話を楽しんできて欲しいと思います。

一つ目は、自然との対話です。石川県の豊かな

日本ボーイスカウト宮城県連盟

連盟長 村井 嘉浩

自然環境の中で、自然に優しく、そして自然を大切にする心を磨いてきて欲しいと思います。

二つ目は、仲間との対話です。日本国内はもとより世界中から集まった仲間と同じ目標に向かって活動に取り組み、友情の輪を広げてきて欲しいと思います。

三つ目は、自分との対話です。その日一日の活動を振り返って、自分の成長を確認したり、新しい課題を見つけたりする、心静かな時間を大切にしてほしいと思います。

さて、指導者の皆様にもお願いがあります。この四年に一度の日本ジャンボリーがもつ素晴らしい教育的な機会を生かして、スカウト達がより一層頼もしい青少年に育つよう力強く導いて欲しいと思います。

最後に皆さん、四泊五日の活動は楽しいことばかりではないはずです。つらい時こそ。これまで培ってきた宮城のチームワークを大いに発揮し、スカウト技量を高めてくることを祈念して、励ましのことばといたします。

みなさんの健闘を期待します。

平成十八年七月二十三日

第14回日本ジャンボリー宮城県連盟派遣団



“風の不思議を突っ走れ”をジャンボリーテーマに、平成18年8月3日開会式～8月7日閉会式として、石川県は能登半島の珠洲市：りふれっしゅ村鉢ヶ崎：を中央会場にして、1907年に英国でB-Pがスカウト活動を開始されて100

派遣団 団長 郷家 照夫

年にもなるこの絶好の機会として行われた。

わが宮城県連盟は、世界スカウト運動創始100周年記念県連盟事業としてこれに県連盟派遣団188名5ヶ隊を編成し派遣隊が送られた。

5日間のキャンプ生活と多彩なプログラムが展開されるジャンボリー会場は、空いっぱい広がる青空と、どこまでも続く青い海がすぐ近くにあるやや平地である。日本全県の代表スカウトと海外からの参加者で2万1千人を超えるスカウトが派遣団を離れ各隊が分散してテントを張った。

県連盟派遣団は開会式に備え、設営の関係で8月2日宮城県を出発し、準備された挑戦種目111種から選択しこれらに閉会式の当日まで頑張って挑戦した。

8月8日の撤営も感謝とスカウトのまごころ

のみを残し深夜無事にそれぞれ帰宅できた。とにもかくにも全員が無事に帰省し、参加したスカウトがスカウティングの楽しさを味わった喜びと感激を聴くことができたこと、また参加スカウトと指導者がそれぞれに人間関係を深めることができたこと等を考えると大変嬉しく思います。

このプログラムに特段のご理解、ご協力、ご支援を賜りました多くの皆様方に、この機会を借りて厚く御礼申し上げます。また、参加されたスカウトひとり一人の誠意と熱意、それに、それぞれの担当者のご尽力とご協力を得て大きな成果を得られたこと改めまして感謝を申し上げます。

体験することは、これ又見る以上に知る事ができると実感しました。百聞は一見にしかず。

14NJの感想

14NJ宮城県連盟派遣団が、有意義にそして無事に派遣の目的を達成しましたことは、いろいろの方々に派遣にかかわっていただいたおかげと感謝しております。また、私の同居していました母が4月に、父が6月に死亡し、葬儀等に時間が取られ、14NJの準備が思うように出来ず、皆様にいろいろとご迷惑をお掛けいたしましたこととお詫び申し上げます。

私は今までジャンボリーを担当するときは、50年前私が中学2年の時に参加した軽井沢での第1回日本ジャンボリーを楽しかった思い出を、出来るだけ多くのスカウトに経験させたいということを基本にいろいろと企画をしてきました。ジャンボリーに参加できるのはボーイスカウト活動期間で1回しかチャンスがありませんが、せっかく参加申し込みをしても、学校行事等と重なり参加を取り消し、この貴重な機会を逃すスカウトが今年も出てしまいました。また、今回は奉仕隊の宮城県連盟への割当ベンチャースカウト15名に対し10名のみの参加となり、残念でありました。

参加隊は地区内または2地区の混成の編成となりましたが、各隊とも問題なく隊運営をしていただき、スカウトがいろいろなプログラムに生き活きと挑戦しており、隊内のみならず隊外のスカウトとの交流も深めて楽しんでおりました。最終日に安達太良サービスエリアでの解団式後、第1隊

このような素晴らしい体験を私だけが一人じめするより、数多くのスカウト達に体験してもらいたい、チャンスがきたら絶対参加してください。

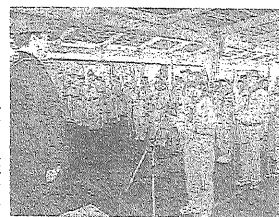


14NJ特別委員会 横澤 繁

【河北新報社 平成18年7月24日付け朝刊記事より】

NEWSFILE
ニッポンスタイル
日本ボーイスカウト宮城県連盟（連盟長・村井嘉浩知事）は二十三日、仙台市内で、八月三十一日に石川県珠洲市で開催される国際野営大会「日本ジャンボリー」の派遣団結団式を開いた。小学六年から中学三年を中心とする団員二百十一人が参加。スカウト代表の秋葉啓君（恵）が、村井連盟長に「宮城県の自

然の中で培ったスカウト技術を生かすとともに、国内、海外の仲間と交流したいと決意を述べた。日本ジャンボリーは、全国のスカウト団員や海外十数カ国のボーイスカウト代表ら約二万五千人が集う四年に一度の交流大会。参加者はキャンプ



スカウト代表が決意表明した

の最後の隊集会で隊長がスカウト一人ひとりと語り合いながら握手をしているのを見たら、隊長もスカウトもいい顔をしており、派遣は成功したと感じ、派遣疲れも飛んでしまいました。

参加した指導者はもちろんのことスカウトも、今回のジャンボリーの楽しかったことなどを、参加できなかったボーイスカウトやカブスカウトに話をしていただき次回の15NJには多くのスカウトが参加申し込みをするようになればよいと思っています。

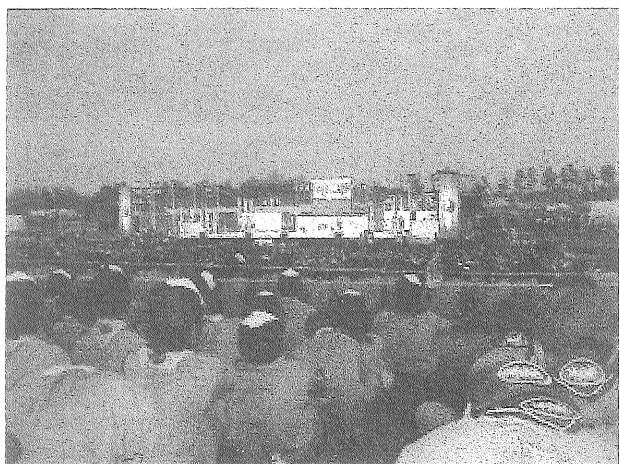
生活のほか、環境保全活動、野外スポーツなどのプログラムなどに取り組む。

ジャンボリーに参加して

宮城第1隊伊達班 中村正紀

ここまで心から楽しめたのは生まれて初めてだった。

石川県珠洲市、りふれっしゅ村で出会う全国の仲間たち。これまで体験したことのないプログラムや交流会。ライブのような大集会。今でも大会中の一瞬一瞬が、記憶にしっかりと焼き付けられている。



僕たち伊達班は、男子3人、女子3人、計6人と少ない人数で、やる気もあまりなく、いろいろ不便も出ました。しかし、この中村正紀の活躍により、まあまあ良好な雰囲気 of 班となりました。でも、あの暑さの中、日中のプログラムをまわるのはかなりきつく、あまり多くのプログラムに参加することは出来ませんでした。もうちょっと廻りたかったな—という後悔は少しあります。プログラムの中で1つ紹介したいものがあります。スウェーデン生まれの楽しいゲーム『クップ』です。

最終日である8月7日。天空の風でアーチェリーを楽しんだ僕ら4人（一人は調子が悪くサイトで休憩）は、ほかのプログラムを探していました。すると、2つの班が、「クップめっちゃおもしろいよ。1回やってみろって。」というので、入ってみました。

敵の杭を倒していくこのゲーム、僕ら伊達班は相

手の横浜に10分で完勝。公式ルールも世界大会もあるこのゲームに僕らはすっぴりのめりこんでしまいました。そして、「クップ大会」の企画にまで至ったのです。企画30分、告知20分のこの大会。1, 8, 9サブキャンプを大声を出してねり歩いたのです。が、結局何日か前から本部で計画されていた女子サッカーに客を取られ、参加者ゼロの状態自分たちで細々とやりました。大会中、挨拶をすればみんな笑顔で返してくれる。言葉が通じない外国のスカウトとも、身振り手振りを交えて交流が出来る。プログラムやキャンプ生活を通して心を1つにする。そんな一体感を感じていました。

特に音楽や花火などライブ状態だった閉会式などは、とにかく踊り、歌い叫び、盛り上がりました。あのみんなと1つになれた時の心地よさは、忘れられません。

これからも、誰にも負けにくいくらい名誉ある、やさしくて、思いやりがあって、心が広く、そして楽しいことが大好きな、テンションが高い、自分らしさを失わないスカウト活動を続けていきます！



ジャンボリーに参加して

私は14NJに行くのを最初はイヤでしたが、合同訓練キャンプの時にこの仲間となら楽しく出来そうだなと思い、14NJが楽しみになっていました。



当日になってみんなと合流しバスに乗り、さあ出発。宮城から石川まで約10時間以上かかって着きました。バスから降りて一番驚いたことは、セミの声のうるささでした。石川の夏はハンパじゃなく、本当に暑かった。そして自分たちが住む1SCの方へ荷物を持ち、長い道を行いました。

コンテナからテントやその他の道具を出して、それぞれの班に分かれてテント・フライ設営が始まりました。P o o h班はその日、食当だったので動き回っていた。みんな疲れているハズなのに、その時はみんなでさわぎました。

2日目からは、自主プログラムを班ごとに選択し参加しました。P o o h班はクライミングウォールをしに野球場へ行きましたが2時間待ちだったと思います。夜からはすべてのスカウト達がアリーナ会場へ行き、開会式が始まりましたのであきらめ、ツリークライミング次にアーチェリーもダメだったのでスポーツチャンバラをしました。みんな楽しんでいました。午後にはビーチフラッグをしに行きました。私も水着になって楽しみました。全身が砂まみれになったけど楽しかったです。結果はなんと3位でした。

宮城第5隊 P o o h班 佐藤さつき

夜になると隊の交流会があり、宮城5隊と山梨県と福岡県と交流しました。あ！言い忘れていたけど、5隊にベン&ジョーが来ました。

ベンはP o o h班に来ていろんなゲームをしたり自己(班)紹介や名刺交換をして交流を深めました。

3日目は宗教儀礼、選択プログラムをこなして夜になりました。大集会では、デイスカバリー号で有名な野口さんが来てくれました。その後に皇太子様がおみえになりました。その時は写真が禁止になっていたので残念です。

4日目もプログラムをこなしてテントサイトへ戻ったら、シャワーがOKの時間だったので、私達はすぐに行きました。初めてシャワーを浴びました。すごく気持ちよかったです。

最終日前夜は、テントを8割たたんで、閉会式に行きました。私も友人と一緒にバカ騒ぎしました。沖縄のバンドの人達が来て、とても楽しかったです。夜はフライの下でぎゅうぎゅうになって寝ました。すべての片付けが終わり、バスへ乗りました。

宮城へ戻った時、私達5隊の人たちは行く前と違う、自信に満ちた顔でした。



SCOUT 地区活動

仙台地区ビーバーまつり

仙台地区広報委員 西村博子

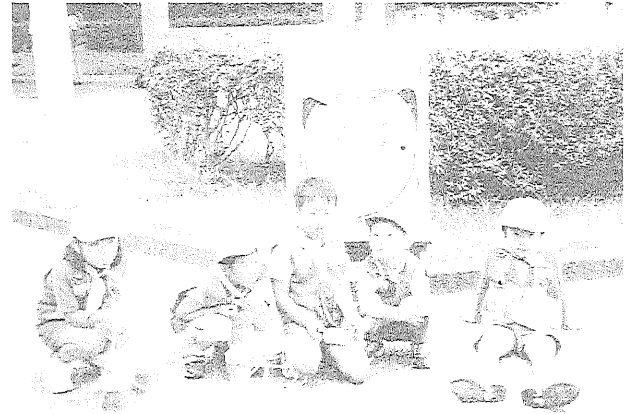
「ビーバーまつり」が、9月10日（日）仙台市青葉区の台原森林公園で開催されました。

5月に予定していましたが、雨のために延期になっていたもので、今回はことしの夏のなごりの蒸し暑い日になりました。参加人数はビーバー隊21名とカブ隊4名、指導者・保護者・兄弟の約50名で行われました。

ラリーのスタートはドラえもののどこでもドアを開くと、面白い楽しいコーナーが子どもたちを待ち受けていました。竹けんだまや昔ばなし、カンバッチ作り、竹ぼっくりをはいての福笑いなど、汗をかきながら一生懸命頑張りました。

ちょうどこの日は入隊上進式と重なり、参加人

数が例年より下回ってしまいましたが、子どもたちの歓声がおまつりを盛り上げていました。



北上川フェア2006 & 下水道展

石巻地区事務長 色川新治

国交省北上川下流河川事務所・石巻市・ボーイスカウト石巻地区協議会等19団体で構成した「北上川フェア2006実行委員会」が主催した“北上川フェア2006 & 下水道展”が10月11日（日）開催されました。

「北上川フェア2006 & 下水道展」は石巻の母なる川「北上川」の環境保護や歴史を知り、川に親しみ、水の大切さを体験することを目的に、今年は12回目の開催になります。

当日は、秋晴れの絶好の天気恵まれ、例年より多くの市民がおとずれ、準備した景品等が品切れになるなどの大盛況でした。

ボーイスカウトコーナーは「自由広場」に“みんな集まれ”のタイトルのもと多くの子供たちが楽しく遊べるよう、1ロープ結び、2キムスゲーム、3輪投げ、4ストラックアウトゲーム、その他県連PR用パネルの展示、地区広報委員会で作

成した募集用チラシの配布等を行いました。

ロープ結びは子供たちが簡単に出来るもの、キムスゲームではペットボトルや空き缶、ラムネの空き瓶など川にポイ捨てしないようにとしました。

チラシは150枚作成し、ゲームの中で配り、大いにPRしました。



東部地区スカウトセミナー開催

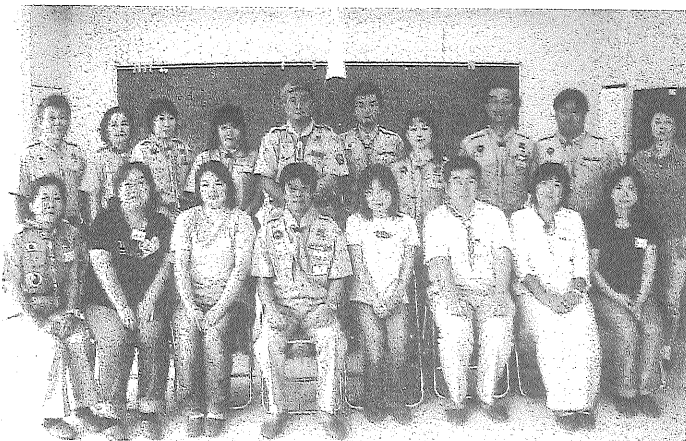
東部地区アダルトリゾーシス委員会委員長 村上佳司

宮城県連盟では、スカウトセミナーを年4回各地区で行っております。

18年度、宮城第2期のセミナーを8月27日に泉区高森市民センターで開催しました。参加者は、7人と少なかったのですが熱心に受講していただきました。最近の、傾向としてスカウトの保護者、特にお母さん達がスカウト活動を理解しようとしての参加が多いようです。

近い将来、指導者としても活躍してもらいたいですね。そのためには、修了者の所属団においてはしっかりとした指導をしていただきたいと思います。

次は、ウッドバッチ研修所に是非参加を期待しております。



SCOUT いきいき団活動

海岸清掃と私たちの浜辺

私たちボーイスカウト岩沼第1団（団委員長 菊池英喜）は、9月18日に二の倉プール東海岸（防波堤周辺と砂浜）の清掃に取り組みました。例年、ボーイスカウト活動として7月の「海の日」に実施しておりましたが、今年は雨天のため延期となりました。当日もあいにくの小雨模様でしたが、海岸を観察するだけでもスカウト達の中から声が出て、スカウト・リーダー・幼児・父母合わせて総勢51名が現地に向かいました。

海岸には、空き缶・ペットボトル・花火の燃え殻・タバコの吸い殻等々たくさんのゴミがそこら一面に散らばっており、あまりの多さ汚さにスカウト達も唖然とした表情でしたが、海や浜辺をきれいに清掃しようと、雨が降りやまず肌寒い天候の中、8時50分からスカウト（幼稚園年長・小学生・中学生）・リーダー・父母が一斉に清掃活動に取りかかりました。

当日は二の倉海岸でサーフボードの集い（ハワイアンヤッシー&ボディエイト）が開催されてお

岩沼第1団 佐藤 出

り、他県からも多くのサーファーが参加しておりました。その青年たち56名も私たちスカウトの行動をみて、自発的にごみ拾い参加協力してくださいました。10時30分に終了しましたが、その間、距離にして約300mの海岸を清掃、拾い集めてあまりの多さにスカウト・サーファーもびっくり仰天しました。



BVS隊の「赤い羽根共同募金」活動日記

9月10日(日)に上進式と入隊式を無事に終え、5名のビーバースカウトでのスタートです。

我が泉1団の新年度最初の活動は「赤い羽根共同募金」でした。

本年度は10月1日、お天気に恵まれた(少し風はありましたが)日曜日。集合時間前にはきちんとビーバーが集まってきました。今日も元気に活動ができる予感です。

セレモニー後、泉中央駅周辺で午後1時から2時間、縦割り4班に別れて始まります。カブ隊・ボーイ隊・ベンチャー隊そしてリーダー。忘れてはいけない!保護者の皆様。団合同での活動です。

最初は、恥ずかしがってなかなか声が出ないビーバーでしたが、先輩たちの中で刺激を受け段々と声ができるようになりました。1時間後、体がク

泉第1団 砂押 名湖

ネクネししました。声もカエルのようになってきました。ここまできたら休憩の時間です。水分を補給し、一口お菓子で元気もりもり!ラストスパートで頑張りました。

活動中、カブの制服を着た先輩たちの姿を見て、ビーバーは羨ましそうに見つめていました。今日の活動で何を感じてくれたのでしょうか?「ときめき」「上進への憧れ」が芽生えてくれたのでしょうか。あれこれ思う私です。

これからがスタート!楽しく魅力のある活動をしていきたいものです。

また1年ビーバーと楽しく笑顔で活動したいと思う

1日でした。



ボーイスカウト塩竈第3団 厳かに発団40周年記念式典

塩竈第3団 高橋 忠

昭和41年 塩竈キリスト教会のリビングストーン牧師によって産声を上げたボーイスカウト塩竈3団は、去る7月15日に塩竈キリスト教会地区会堂(利府町)において発団40周年記念式典を執り行いました。キリスト教会を育成母体とする当団らしく、育成会委員でもある山田牧師の司式で、団歌斉唱にはじまり、聖書朗読、讃美歌など厳粛の中にも和やかに家庭的な雰囲気です。



式典終了後、千葉県連コミッショナーをはじめ多くの塩竈3団OB・OG、団や教会関係者にも引き続きご出席いただきささやかな祝賀会を同会堂内で催しました。相澤ボーイ隊長の軽妙な司

会で、出席者全員がスピーチ、懐かしい思い出話に、会場は大笑いや拍手が続きました。

また、9月16日~18日の2泊3日で丸森町の不動尊キャンプ場において、団キャンプを行いました。台風の襲来で大雨が心配されたが、期間中は何とか天が味方してくれ(たまに土砂降り)で、予定していたプログラムも消化、この雨中キャンプでスカウト一人一人がたくましく成長したのではと感じることも出来ました。

多くの方々に支えられた40年間、これからもわれわれ指導者一同は団の発展、スカウトの発展を願い50周年に向けてがんばろう!



キャンプの思い出

8月19日から、8月20日にかけて、カブ隊の夏のキャンプを行いました。

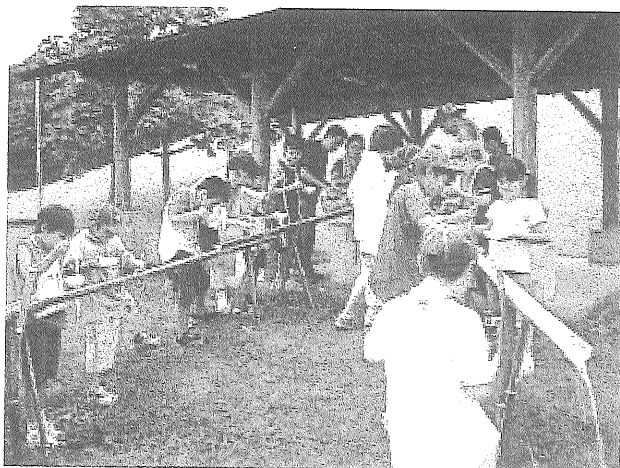
石巻せんしゅう大学での、科学の祭典の参加や、流しそうめん体験など、いろいろしましたが、私が一番楽しかったことは、「金さがし」です。理由はみんなで力を合わせていっしょうけんめいさがしたからです。

私たち二組は金色の石を10こ見つけることができました。次の日は、「年間最ゆうしゅう組」に二組が選ばれて本当にうれしかったです。

今年は私が組長なので、新しい仲間たちといっしょに、力を合わせて、今年も年間さいゆうしゅう組しょうを組旗に付けてもらえるよう、がんば

石巻第2団 青木鈴奈

りたいです。



ギネスブックへの挑戦

9/24私は、「流し温麺でギネスに挑戦」の下準備のため、ボーイスカウトのメンバーと白石スキー場へ出かけました。スキー場は天気が悪く霧がかかって少し寒かったです。

温麺が流れる節取りはハンマーで叩いて取ります。市内の青年会議所、商工会議所の実行委員の方々にご指導され意外と簡単に取れました。その後、竹に絵や自分の名前を大きく書きました。10/1天気は快晴。いよいよギネスへの挑戦が始まりました。10時30分花火の合図でスタートしました。「流れる温麺が途中で止まったら？」不安に思い温麺を見守りながらコースを歩きました。コースは約150本の竹を使ったそうです。温麺は順調に流れました。ゴール地点が私の名前を書いた所なのでドキドキわくわくしました。

温麺1本が通った瞬間に大きな花火が上がりゴール。時間は55分50秒、新記録の1802

白石第1団 ボーイ隊 阿子島 あい mでした。みんな笑顔で万歳しました。私もすごく嬉しくなり大きな拍手をしました。

私は中学1年生、この日の感動を忘れずにこれからもいろんな事へ挑戦していこうと思います。



迫第一団布施団委員長の 日連「たか章」受章を祝賀

当団の布施団委員長が5月27日、石川県和倉で開催されたボーイスカウト全国会議で、日本連盟より功労章「たか章」を受章しました。

受賞は「ボーイスカウト運動の発展充実のため多年にわたる顕著な功績による」もので、発団30周年を迎える迫第1団にとっても名誉ある慶事となりました。

迫第1団 須藤 英一

祝賀会は9月14日、秀団育成会長が発起人となり、プラザ21で開かれ、千田宮城県連盟理事長・千葉県コミッショナー・県北地区役員・友団指導者および地域から布施孝尚登米市長・門田登米市教育委員長ら、80名が出席。布施団委員長ご夫妻への祝福と、迫第1団の今後ますますの活躍と発展を祈り弥栄を送りました。

お寺で新入・上進式を！！

我が団では、例年公民館で「新入・上進式」を実施していたが、武山カブ隊長の発案で「私がカブ隊に入隊したときお寺で座禅し“ちかい”をたてた。今でもその事が良い思い出になっており、ぜひスカウト達に経験させたい」となり、石巻市山下町・臨濟宗・桂林山・禅昌寺（桂田文隆住職）のご好意により実現しました。

座禅会では2人の副住職より“座禅する意味”や足の組み方、姿勢などのご指導で約1時間、さらに法話では「自分や友達、兄弟、両親、おじいさん、おばあさんなどまわりの人を大事にすること、感謝することが大切です。」などが話され、スカウト達は緊張しながらも静かに聞き入っていました。

その後、梅湯をごちそうになり、入隊・上進式を行いました。

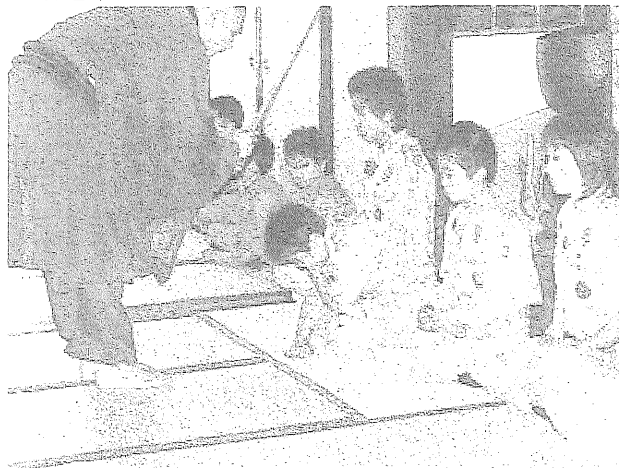
新入隊は、ビーバー4名、指導者2名、カブ3名、指導者2名、一人ずつ“ちかい”を大きな声

石巻第6団 団委員長 村田雄亮

でたてました。

上進者はビーバーよりカブ隊4名、ボーイ隊よりベンチャー隊1名でした。

その後“カントリー大作戦”の計画でしたが台風13号の影響で中止となり、各隊毎に集会を開き有意義な一日の活動でありました。



広報研究会開催のご案内

ボーイスカウト運動：地区・団、を広く周知のための広報研究会を開催します。

地区広報担当はもとより、スカウトに関係の、多くの方々のご参加を望みます。

特にスカウト運動創始100周年にかかる各地区冠事業の記録とりまとめの仕組み等についての事も有りますので是非時間を作られてご参加ください。

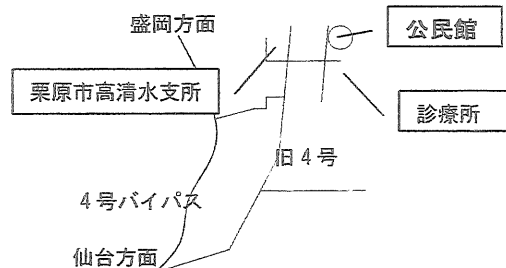
日時：平成18年11月25日（土）

午後1時30分～午後3時30分

場所：栗原市高清水教育センター（公民館）

研究内容：

1. 地区・団 広報の組み立てについて
2. 広報写真取材の技法について
3. 100周年 冠事業のとりまとめ集約について



各地区広報委員長は11月15日まで参加者を県連盟事務局まで報告

編集後記

ジャンボリー参加活動報告、スカウトラリー等隊員の躍動の姿が重点の号と成りました。

青空のままに夜になる

夜のままだに青空になる

宗左近の詩 幻花 の出だし。

変わらないスカウト、スカウターが読むのかはたまた読者は対岸の人々かの声も。

前号の記事 村井嘉浩宮城県知事が県連盟長と初めて知ったとの市役所の職員も。

あらためて多くの食材多い程の川原の芋煮会は旨いもの とご寛容あれ。

地区、団活動多くの記事提供に謝。

1稿400字内、写真1枚程度でのお願いで。（堀）

■ 発行 日本ボーイスカウト宮城県連盟
■ 編集 宮城県連盟広報委員会
〒981-0915
仙台市青葉区通町1-6-9
宮城県通町分庁舎内
TEL/FAX 022-234-2359